

令和6年度

病害虫発生予察情報 第19号

注意報第9号

北海道病害虫防除所 令和6年(2024年)8月21日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

トマトキバガによるトマトの被害が各地で発生しています！ 葉の食害に注視し、見つけたら速やかに防除を！

侵入警戒有害動植物の一種であるトマトキバガについては、道内では令和5年に初めて飛来が確認されたところです。本種は本年も全道各地で飛来を認めており、各地のハウス栽培トマトで葉や果実の食害が確認されています。ハウス内ですでに世代を重ねて増殖している事例もあることから、発生を見落とさないよう注意が必要です。前年発生が確認されていない地域でも、発生に注意してください。

本種は増殖力が強い害虫です。ハウス内の観察に努め、葉に特徴的な被害（写真1参照）を認めたら、速やかに薬剤防除を開始してください。

1. 発生地域 全道

2. 発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 空知、胆振、日高、渡島管内など、道内各地のハウス栽培トマトで、葉や果実の食害が確認されている。
- (2) 上記の事例では、道外からの飛来世代だけでなくハウス内で増殖した世代によると推測される食害が散見される。
- (3) フェロモントラップによる調査において全道各地で成虫の誘殺を認めている。農試内設置のトラップでは、長沼町、比布町、北斗市、芽室町及び訓子府町のいずれの地点においても誘殺が確認されている。とくに、長沼町及び北斗市では前年を大きく上回る頭数が継続してトラップに誘殺されており、前年発生が認められなかった地域でも本年新たに発生する可能性がある。

4. 防除対策

- (1) ほ場を観察し被害の確認に努める。幼虫は数～5mm程度と小さく、葉や果実に穿孔侵入する。葉の被害の特徴は、薄皮を残した大ぶりの袋状潜葉痕となり、糞が端に蓄積される（写真1参照）。また、幼虫は潜葉痕から脱出後に生長点付近を加害する。
- (2) トマトキバガの発生が疑われた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センター、農業試験場、病害虫防除所に連絡し、発生種の確認を行う。
- (3) 薬剤散布を行う。薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う（表参照）。
- (4) 被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するなどして死滅させ、適切に処分する。



写真1: トマト葉の食痕



写真2: 食痕と幼虫



写真3: トマト果実の食害痕



写真4: ほ場で確認された幼虫 (メモリは 1mm)



写真5: トマトキバガ成虫

写真1～3は中央農業試験場 原図、写真4～5は道南農業試験場 原図

表 トマトキバガに登録のある薬剤(令和6年8月 16 日現在)

農薬の種類	農薬の名称	登録作物		使用方法 (希釈倍数、使用方法)	IRAC コード
		トマト	ミニトマト		
B T水和剤	エスマルクDF	○	○	1000倍、散布	11A
アバメクチン乳剤	アグリメック	○		500～1000倍、散布	6
インドキサカルブ水和剤	トルネードエースDF	○		2000倍、散布	22A
	ファイントリムDF	○		2000倍、散布	
エマメクチン安息香酸塩乳剤	アフーム乳剤	○	○	2000倍、散布	6
クロルフェナピル水和剤	コテツフロアブル	○	○	2000倍、散布	13
シアントラニリプロール水和剤	ベネビアOD	○	○	2000倍、散布	28
	ベリマークSC	○	○	400株当り25ml、灌注、 希釈水量400株当り 10～20L (1株当り25～50ml)、 育苗期後半～定植当日	
シアントラニリプロール粒剤	プリロツン粒剤	○	○	2g/株、株元散布、	5
	プリロツン粒剤オメガ	○	○	育苗期後半～定植時	
スピネトラム水和剤	ディアナSC	○	○	2500～5000倍、散布	5
	ラディアントSC	○	○	2500～5000倍	
テトラニリプロール水和剤	ヨーバルフロアブル	○	○	2500倍、散布	28
ピリダリル水和剤	プレオフロアブル	○	○	1000倍、散布	UN
フルキサメタミド乳剤	グレーシア乳剤	○	○	2000倍、散布	30
フルベンジアミド水和剤	フェニックス顆粒水和剤	○	○	2000倍、散布	28
メタフルミゾン水和剤	アクセルフロアブル	○	○	1000倍、散布	22B
脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	ダブルシューターSE	○	○	1000倍、散布	-,5